



腹腔鏡下手術について

● 腹腔鏡下手術とは

- お腹に1～数個の小さな穴を開け、そこからカメラや手術器具を入れて行う手術です。通常は全身麻酔で、お腹に炭酸ガスを入れてドーム状に膨らませる気腹法で行います。検査目的または侵襲が少ない手術の場合は、脊椎麻酔で行うこともあります。
- 開腹手術と比べてお腹の傷が小さいため、術後の痛みが軽く、短い入院期間で早く社会復帰できます。また、術後の癒着が少なく、美容的にも優れています。

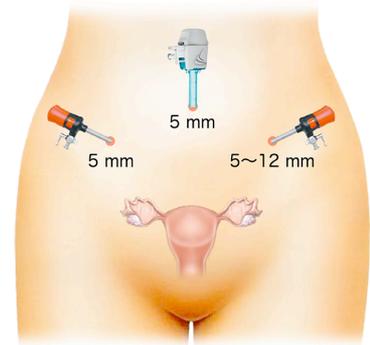
● 腹腔鏡下手術の適応と方法

- 腹腔鏡下手術は、さまざまな疾患に対して行われます。不妊症では子宮や卵管の状態を確認して、より良い治療を選択できます。また、子宮内膜症では病巣を取り除きお腹の中を洗うことで、痛みの軽減と妊孕性の向上を期待できます。

● 3孔式手術

- 大きな腫瘍を摘出する必要がない場合は3ヶ所の切開で行います。下記の手術が適応です。

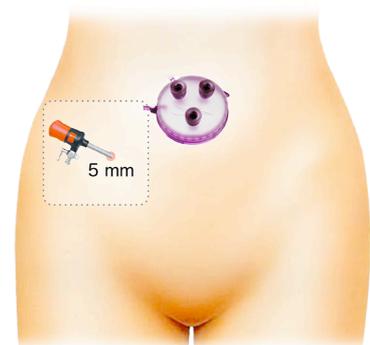
- 腹腔内の検査 (原因不明不妊など)
- 子宮内膜症病巣除去術
- 付属器周囲癒着剥離術
- 卵管切除・卵管開窓術 (卵管留水症)
- 卵管形成術 (卵管閉塞)
- 多嚢胞性卵巣焼灼術
- 異所性 (子宮外) 妊娠手術



● 単孔式・2孔式手術

- 子宮筋腫や卵巣腫瘍では、臍のみ、または臍と下腹部の2ヶ所の切開で行います。下記の手術が適応です。

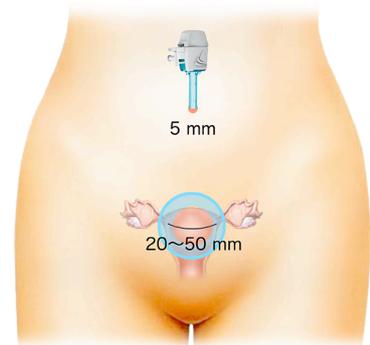
- 子宮筋腫核出術
- 卵巣嚢腫核出術
- 付属器切除術



● 腹腔鏡補助下手術

- 小さな穴では手術が困難な場合、下腹部に小切開を加えて直視下に行います。下記の手術が適応です。

- 子宮筋腫核出術 (多発性の筋層内筋腫など)
- 卵巣奇形腫核出術
- 帝王切開後子宮切痕修復術



● 手術の日程

- **全身麻酔**の場合は**金曜日**に手術を行います。手術の前日に入院していただき、術後の経過が良好であれば翌週の月曜日(術後3日目)以降に退院できます。手術費用は術式によって異なりますが、5～6日間の入院で15～30万円(保険適用)です。
 - **脊椎麻酔**の場合は月・水・木曜日のいずれかに手術を行います。手術の当日朝に入院していただき、翌日に退院できます。1泊2日の入院で約10万円かかります。
 - 手術の1～2週間前に、外来で**術前検査**(血液検査、胸部レントゲン検査、心電図検査など)を受けていただきます。
 - 卵管に対する手術(子宮内膜症や卵管周囲癒着など)は月経後半～終了直後にしか行なえません。月経周期の移動が必要な場合は、手術予定日の1か月以上前の月経開始時にピル等を処方して調整します。
- ※ 投薬治療を受けている方は、あらかじめお申し出ください。疾患や投薬の種類によっては手術を行えない場合があります。抗血栓薬(アスピリンなど)は手術前に中止しなくてはなりません。詳細は担当医にお聞きください。
- ※ 高度肥満(BMI \geq 30)の方は、術中～術後の呼吸管理が困難になる可能性が高いため、集中治療室のある高次医療施設で手術を受けることをお勧めします。
- 手術後の回復には個人差があり、退院後の静養期間はとくに指定していません。仕事への復帰などはご自身の体調をみて判断してください。診断書が必要な場合は、術前検査、または入退院時にスタッフに申し出てください。

● 起こりうる問題点(合併症など)

- **他臓器損傷・出血**：手術操作によって膀胱、尿管、腸、血管などを傷つけてしまうことがあります。予期せぬ出血、腸や膀胱などの損傷、重症の癒着など、腹腔鏡では対処できない場合には開腹手術に切り替える可能性があります。輸血を行うこともあります。高次医療施設での管理が必要な場合は、緊急搬送することもあります。
 - **血栓症**：手術後まれに、足(ふくらはぎ)の血管にできた血栓が肺の血管をつまらせてしまう肺塞栓症が起こることがあります。命にかかわる重篤な合併症ですので、手術後に「低分子ヘパリン」という血栓予防薬を注射します。
 - **感染症**：腹腔内やお腹の傷に細菌感染が起こらないよう抗菌薬を投与します。
 - **腸閉塞**：麻酔薬の影響や、手術前後の安静臥床などにより腸の動きが低下して、便やガスが出づらくなります。腸閉塞になると、嘔吐したりお腹が痛んだりすることがあります。絶食にして腸を休め、腸蠕動を刺激する注射を点滴することで改善します。
 - **皮下気腫**：皮下組織に炭酸ガスがたまる状態です。数日で吸収されます。
 - **疼痛**：術後に上腹部や肩に痛みがでることがあります。肩の痛みは頭を下げる体位や気腹ガスの影響といわれています。数日で軽快します。
- ※ 卵巣腫瘍の手術では、正常卵巣組織を残して腫瘍のみを摘出することを基本としていますが、正常卵巣組織が同定できなかつたり、腫瘍の剥離が困難であったり、悪性病変が疑われたりすると、患側の卵巣を摘出せざるを得ない場合があります。
- ※ 病理組織検査で摘出腫瘍・臓器に悪性病変が見つかった場合は、高次医療施設で追加治療(手術や抗がん剤など)を行うことがあります。